

平城京の発掘調査

本年度の発掘調査は19件に上る。内訳は宮城内9件、京城内10件である。京内寺院域内の調査が6件と多いことが特筆できる。このうち、学術研究および史跡整備に関わる発掘調査は7件7136.5㎡、住宅建設等による緊急調査は12件882㎡である。

平城宮では、東院地区(第292次)において、3棟が連結した構造をもつ楼閣建物を確認し、第一次大極殿地区第Ⅱ期正殿と類似した施設が存在することが明らかになった。当地区には「玉殿」、「楊梅宮」として文献にあらわれる中枢施設の存在が推定されるが、これらが近隣に存在する可能性が高まった。

大極殿院の復原に関連して、大極殿西半部および西面回廊(第295次)、回廊西南隅(第296次)を調査した。

大極殿の規模、特に基壇に関する新たな知見を得、本格的にはじまった第一次大極殿地区の復原に有益な情報を提供できた。回廊部では大規模な木樋暗渠の存在が明らかになり、宮殿内の排水のあり方について情報を得た。

馬寮東方官衙(第298次)では、存在が予測されていた長大な礎石建物の規模を確定した。コの字型の建物配置をもつ大型建物群として「西池宮」として文献にあらわれる施設との関連を指摘する声もある。

平城京城は、寺院の調査が中心である。

興福寺では、平城遷都1300年にあたる2010年を目標に伽藍復興の計画があり、本年度より寺域内の調査を継続して実施することにしている。

中門の調査(第297次)では、規模や構造が明らかになった。また、絵図にみられる塑像の礎石や、地鎮を目的とすると考えられる遺構を発掘した。記録から、幾度もの焼亡、復興が知られるが、調査においても数度の改変

が確認でき、それを裏づけることとなった。

西隆寺（第299次）では、造営以前に存在した一条条間北小路、西二坊坊間西小路を調査した。また、古墳時代と考えられる掘立柱建物を確認した。

西大寺（第294次）、薬師寺（第293-8次）では、中世の貴重な資料を提供することとなった。

平城宮北方（第293-3次）では、掘込地業が確認され、宮北方の土地利用のありかたが伺える。

大乘院（第300次）では、絵図にある舟溜まりへの入り込み部と推定される池北岸部の様相を明らかにした。

なお、発掘調査の現地説明会を以下の通り実施した。

（金田明大）

6月13日	第292次（東院地区）	清野孝之
9月26日	第295次（第一次大極殿院）	蓮沼麻衣子
11月21日	第297次（興福寺中門）	次山 淳
2月20日	第298次（馬寮東方官衛）	玉田芳英